

相互評価学習による進路選択自己効力の変化

—尺度項目の分析—

Change of Career Decision-Making Self-Efficacy through Peer Assessment Learning
— Analysis of the Scale Items —

桑原 千幸^{*1*2} 喜多 敏博^{*2} 合田 美子^{*2} 鈴木 克明^{*2}

Chi-yuki KUWAHARA^{*1*2} Toshihiro KITA^{*2} Yoshiko GODA^{*2} Katsuaki SUZUKI^{*2}

^{*1} 京都文教短期大学 ^{*2} 熊本大学大学院教授システム学専攻

^{*1} Kyoto Bunkyo Junior College

^{*2} Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

＜あらまし＞短期大学の初年次キャリア教育科目において進路選択自己効力を向上させることを目的とした相互評価学習を実施し、受講生の進路選択自己効力の変化を調査した。進路選択自己効力尺度の各項目の変化を検証したところ30項目中24項目が有意に上昇しており、特に自己評価、目標選択、将来設計に関わる項目に変化が多く見られた。相互評価学習の対象となる進路選択課題の内容が、進路選択自己効力の変化に影響を与えている可能性が示唆された。

＜キーワード＞ キャリア教育、進路選択自己効力、相互評価学習、授業設計

1. 目的

筆者らはこれまで、短期大学の初年次キャリア教育科目においてMoodleを活用した相互評価学習を実践し、受講生の進路選択自己効力が相互評価学習の実施前後で有意に向上することを明らかにした(桑原ほか 2014)。しかし、相互評価学習が進路選択自己効力のどの要素に影響しているのかは明らかではない。

Taylor&Betz (1983) は、自己評価、職業情報の収集、目標選択、将来設計、問題解決の5つの要素から成る職業選択能力に準拠して、進路選択自己効力の測定方法を提言している。そこで本研究では、2014年度の授業実践における受講生の進路選択自己効力の変化を尺度の質問項目ごとに検証し、相互評価学習が進路選択自己効力の変化に与える影響を職業選択能力の5要素の観点から検討することを目的とする。

2. 方法

2.1. 対象

京都府南部に位置する私立短期大学において、2014年度前期に初年次選択科目として開講されたキャリア教育科目「キャリア形成論」1年生3クラスの受講者105名を対象とした。

2.2. 授業実践の概要

短期大学1年次にキャリア意識と進路選択自己効力を高めることを目的として、進路選択課題に関わる相互評価学習を中心とした授業を設計した。課題は、現時点の自己理解をもとに、卒業時点、卒業から3年後、5年後、10年後につい

てそれぞれ目標と目標達成のための方策を考え、「私のキャリアプラン」と題してプレゼンテーションスライドを作成し、発表するという内容である。第1回から第9回は、キャリアプランの作成に向けて必要となる社会状況についての知識習得や自己理解を目的として、ワークシートを活用した講義を行った。第10回から第15回で、進路選択課題のキャリアプラン作成に取り組み、相互評価と改善、発表を行った。

相互評価学習システムはMoodleのワークショップモジュールを使い、評価者1人につき評価対象者5人を割り当て、匿名評価を行った。評価基準として、8項目5段階のルーブリックを学習者に提示した。

2.3. 尺度、調査時期、手続き

浦上(1995)の「進路選択に対する自己効力尺度」(30項目、4件法)によって、相互評価学習の実践前後に進路選択自己効力の調査を行った。すべての調査について欠損値のあるデータを除いた有効回答数は95名である。尺度全項目の合計点を進路選択自己効力尺度得点として用いた。得点範囲は30点から120点である。

3. 結果と考察

3.1. 実践前後の進路選択自己効力の変容

受講生の進路選択自己効力尺度得点の平均値は、相互評価学習実践前が82.77点($SD=11.41$)、実践後が89.34点($SD=12.26$)であった。対応ありの t 検定を行なったところ、有意差が認められた($t(94)=6.075, p<.01$)。

3.2. 進路選択自己効力尺度の各項目の変化

進路選択自己効力尺度の30項目の事前事後の変化について、対応ありのt検定を行った結果をt値の高い順にソートしたものを表1に示す。30項目中19項目が1%水準、5項目が5%水準で有意に上昇していた。本研究で使用している尺度には、複数の職業選択能力の合力的な項目も含まれているため、各項目がどの要素に対応しているかを筆者が分類・整理している。

事後に大きく上昇している項目は(a)自己評価、(b)職業情報の収集、(c)目標選択、(d)将来設計に関わるものが多く、いずれも80%以上の項目が上昇していた。これは、相互評価学習の対象となる進路選択課題が、現在の自己理解をもとに将来の目標を立て計画を立案する内容であることに影響を受けていると考えられる。一方で、(e)問題解決に関わる項目のうち有意であった項目数の割合は60%であり、他の要素と比較すると変化が見られなかったと言える。今回の課題では不測の事態が起こった場合の想定や対処がキャリアプラン作成の範疇ではないこと、就職課の利用など実際の就職活動対策に関わる内容が15回の授業であまり扱われていないことが、問題解

決に関わる効力感がさほど上昇しなかった原因ではないと思われる。

今後は、受講生アンケートの自由記述等の質的データをもとに相互評価学習が進路選択自己効力変容に与える影響を検証し、自己効力の要素に応じた授業デザインの工夫を検討したい。

謝辞

本研究は、科学研究費補助金若手研究(B)(課題番号:26750093)の補助を受けたものである。

参考文献

- 桑原千幸、喜多敏博、合田美子、根本淳子、鈴木克明
(2014) 初年次キャリア教育科目における相互評価学習の実践と進路選択自己効力の向上. 日本教育工学会論文誌, 38(2): 79-89
- 浦上昌則(1995) 学生の進路選択に対する自己効力に関する研究. 名古屋大学教育学部紀要教育心理学, 42: 115-126
- TAYLOR, K. M. and BETZ, N. E. (1983) Applications of Self-efficacy Theory to the Understanding and Treatment of Career Indecision. *Journal of Vocational Behavior*, 22: 63-81

表1 進路選択自己効力尺度の各項目の変化

質問項目	a	b	c	d	e	事前	事後	t検定
14 将来のために、在学中にやっておくべきことの計画を立てること。				○		2.88	3.17	**
1 自分の能力を正確に評価すること。	○					2.34	2.71	**
22 今年の雇用傾向について、ある程度の見通しを持つこと。		○				2.59	2.91	**
8 何かの理由で卒業を延期しなければならなかった場合、それに対処すること。					○	2.38	2.73	**
2 自分が従事したい職業(職種)の仕事内容を知ること。		○				2.85	3.13	**
17 自分の興味を持っている分野で働いている人と話す機会を持つこと。		○				2.69	2.95	**
26 将来どのような生活を送りたいか、はっきりとさせること。	○		○			3.16	3.44	**
21 いくつかの職業に、興味を持っていること。		○				3.23	3.48	**
7 自分の望むライフスタイルにあった職業を探すこと。	○	○	○			3.00	3.23	**
9 将来の仕事において役に立つと思われる免許・資格取得の計画を立てること。				○		3.07	3.32	**
16 自分の才能を、最も生かせると思う職業的分野を決めること。	○		○			2.84	3.08	**
6 人間相手の仕事か、情報相手の仕事か、どちらが自分に適しているか決めること。	○		○			3.03	3.26	**
15 欲求不満を感じても、自分の勉強または仕事の成就まで粘り強く続けること。					○	2.93	3.18	**
24 就職時の面接でうまく対応すること。					○	2.46	2.71	**
4 5年先の目標を設定し、それにしたがって計画を立てること。			○	○		2.45	2.72	**
29 卒業後さらに、大学、大学院や専門学校に行くことが必要なのかどうか決定すること。			○	○		3.16	3.41	**
11 自分の理想の仕事思い浮かべること。	○		○			3.31	3.51	**
12 ある職業についている人々の年間所得について知ること。		○				2.75	2.97	**
27 自分の職業選択に必要な情報を得るために、新聞・テレビなどのマスメディアを利用すること。		○				2.81	3.03	**
23 自分の将来設計にあった職業を探すこと。	○	○		○		3.05	3.23	*
19 自分の将来の目標と、アルバイトなどでの経験を関連させて考えること。	○		○			3.24	3.41	*
13 就職したい産業分野が、先行き不安定であるとわかった場合、それに対処すること。					○	2.63	2.81	*
10 本当に好きな職業に進むために、両親と話し合いをすること。					○	3.32	3.51	*
5 もし望んでいた職業に就けなかった場合、それにうまく対処すること。					○	2.60	2.79	*
30 望んでいた職業が、自分の考えていたものと異なっていた場合、もう一度検討し直すこと。					○	3.03	3.15	
3 一度進路を決定したならば、「正しかったのだろうか」と悩まないこと。					○	2.42	2.54	
25 学校の就職係や職業安定所を探し、利用すること。		○			○	2.96	3.09	
18 現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと。			○			3.00	3.11	
20 両親や友達に勧める職業であっても、自分の適性や能力にあっていないと感じるものであれば断ること。	○				○	3.33	3.42	
28 自分の興味・能力に合うと思われる職業を選ぶこと。	○		○			3.24	3.27	
有意項目の割合						80.0	88.9	80.0 100.0 60.0

a:自己評価, b:職業情報の収集, c:目標選択, d:将来設計, e:問題解決

(* $p<0.05$ ** $p<0.01$)